

わが街をもっと知りたくて

市内で富士山が見えるところ

「富士見橋」「富士見通り」という名称が示すとおり、かつては、市内の至るところから富士山を見ることができたのだと思います。今では、高い建物が建ち、富士山を見ることができる場所は限られています。

編集室では、市内で富士山が見えるところを探してみました。公共施設など、誰でも立ち入ることができる場所です。

富士山がきれいに見える場所をご存知でしたら、公民館へお知らせください。

① 題目馬頭観音塔から (東町二丁目 6 番)
 ② 保谷駅前公民館 5 階印刷コーナーから
 ③ 西東京市スポーツセンターデッキから
 ④ 都立東伏見公園 すべり台付近から
 ⑤ 武蔵境通りと五日市街道の柳橋交差点
 ⑥ 下宿地区会館前から
 ⑦ 芝久保公民館 創作室の窓から
 ⑧ 東大農場通りから
 ⑨ 下保谷ふれあい歩道橋から (伏見通りと西武池袋線が交差する歩道橋)

【報告】 柳沢公民館主催 青年対象 作詞・作曲ワークショップ
 ～あなたの感性でオリジナル曲をつくろう～
 平成30年9月6日～12月9日(全9回)

「思いよ、伝われ！」
 昨年9月から実施した本講座は、12月開催のヤギフェスでの発表をもって終了しました。
 音楽が好きな青年層をターゲットに呼びかけた講座でしたが、参加者は8歳から70歳までの20人。年齢も経験も、興味関心も異なるメンバーでしたが、講師の野口義修さんが豊富な経験に基づいた話で参加者の曲づくりの想いや意欲を引き出してくれました。

まず作詞です。思い浮かぶフレーズを書き止め、つなげていくのですが、語数が揃わないため、歌にくい詞になってしまふことがありました。講師からは、文字数を揃えるといった基本的な指導や自分の体験に基づいて描くことの大切さの指摘などがあり、みな、何回も練習直しました。月2回の講座では間に合わず、各自が講師にメールで指導を仰ぐこともありましたが、次は作曲です。作曲については十分な指導の時間がとれず、曲をつくれなかった人もいましたが、講師が曲を提供し、20人のオリジナル曲が完成しました。

一般的には、歌をつくることは、才能がある人や楽器を弾ける人がする特別なことだと考えられていたと思います。しかし、この講座では、「楽器も弾けないし、詞を書いたこともないけど、おもしろそうだから参加した」という人が、最後には、自分がつくった歌をみんなの前で歌うことができました。歌は鼻歌でつくることができるといふ講師の話を実感しました。仕事や家族を抱え、夜の講座に参加するのは大変なことだと思いますが、「何かつくりだすことの大変さやちょっと楽しみさ味わうことができた」という座の収穫でした。



講師は、「生きることを伝えるのが音楽の役割だ」と言っていました。多くの作品は生きる喜びを感じさせるものばかりでした。作品を一つ紹介します。

わたしのだいたいいいこの川
 きれいな川だよ
 はだしてはいるときもちいかな
 アブラハヤ ホトケドジョウや
 ジュスカケハゼ
 みんな友だちさ
 かみさまがすんでるいいこの川

公民館 市民企画事業

平成31年度公民館市民企画事業第1回説明会

公民館市民企画事業は、市民に多様な学習機会を提供することを目的に、市内の自主グループが企画・運営する事業を、審査の上、自主グループと公民館の共催事業として実施するものです。講師料は公民館が負担します。

この制度を利用できるのは、その年度の説明会に参加した自主グループです。平成31年度公民館市民企画事業第1回説明会は、左記の日程で行う予定です。詳細は、3月1日号をご覧ください。

- 【昼の部】
 時 3月6日(水)10時～12時
 場 田無公民館
 - 【夜の部】
 時 3月7日(木)19時～21時
 場 柳沢公民館
- 事業案内
- 多摩のみどりを知って楽しもう
 西東京 自然を見つめる会
 「東京の森」を知り尽くしている講師が、多摩のみどりの素晴らしさ、楽しみ方、その保存のための課題などを語ります。
 時 2月16日(土)14時～16時
 場 田無公民館
 定 55人(先着順)
 講 福嶋司(東京農工大学名誉教授)
- タブレットでキャラクターを楽しく動かしてみよう！
 iPadのしみ隊
 タブレットの基礎を学び、アプリを使って登場するキャラクターを動かすなどの練習後、各自作品を作り、みんなで楽しみます。
 時 ①2月24日(日)②3月3日(日)③3月10日(日)13時半～15時半
 場 田無公民館
 定 12人(申込順)
 ①タブレットの基本的操作
 ②アプリの基礎知識・操作
 ③自由に作品を作ろう！
 講 ①横山晴美(スマホ・タブレットマスター)、②村上和光(シニア情報生活アドバイザー)
 定 500円(資料代)
 申 2月4日(月)から電話で左記へ

自衛隊をなくす・変える
 平和憲法の解編構想
 ピースナウ西東京
 自衛隊を、世界平和に積極的に貢献する非軍事組織に変えられないでしょうか。軍拡から軍縮へ、転換の道を考えましょう。
 時 3月2日(土)14時～16時半
 場 柳沢公民館
 定 105人(先着順)
 講 水島朝穂(早稲田大学法学学術院教授)
 定 100円(資料代)

まちなかで農に親しむ
 武蔵野農業ふれあい村の事例
 西東京 菜の花エコプロジェクト
 本市の魅力は農地が身近にあること。都市にあるべきものとして、農地をさらに活かしたまちづくりを一緒に考えましょう。
 時 3月3日(日)14時～16時
 場 谷戸公民館
 定 60人(先着順)
 講 齋藤瑞枝(NPO法人武蔵野農業ふれあい村理事長)

メールでの講座申込方法
 アドレス：1面参照
 件名：講座名
 本文：氏名・電話番号・住所・年代
 ※後日確認メールを送ります。届かない場合はお手数ですが、電話でお問い合わせください。

日原進太郎(映画監督・向台町在住)
 映画『僕の帰る場所』
 プロデューサー・渡邊一孝(南町在住)
 脚本・監督・編集・監製：藤元明緒
 ミヤンマー軍事政権の弾圧で「移民」となった一家を繊細に描く本作は日本・ミヤンマー合作で、一昨年の東京国際映画祭「アジアの未来」部門で日本人監督初の二冠達成を皮切りに国内外数々の映画祭に招待され、現在全国で公開中である。

世界的な関心事である「移民」という題材、ドキュメンタリーかと思いつくほどのみずみずしい演技など、随所に映画の価値を見いだせる本作に秘められた本来の力強さは一体何であるのか。東京郊外でつましく生活する母・ケインと幼い兄弟、そして入国管理局に身柄を拘束された父。今後の生活への不安からケインは帰国への想いを募らせていく。日本からミヤンマーに舞台が移り、兄・カウンの視点で展開する後半に着目してみる。ミヤンマーでの生活に馴染めないカウンはケインと口論の末家出する。片言のミヤンマー語を使ってあてもなく町を歩き、運命的にある少年たちと出会い無邪気に遊び回る。「僕の帰る場所」はどこなのか。二つの国の狭間で自らのアイデンティティが揺らぐカウンの心と、少年たちとの出会いはまさに自分の居場所を実感できる至福の一時だったろう。陽も暮れて家路を辿るカウンの遅い眼差しと足取り。その力強さは社会の制度や国境も乗り越え、明日を生きたる希望を僕らに与えてくれる。